



2019年11月8日

各 位

上場会社名 古河機械金属株式会社  
 代表者 代表取締役社長 宮川 尚久  
 (コード番号 5715)  
 問合せ先責任者 経理部長 三影 晃  
 (TEL 03-3212-7021)

## 2020年3月期 連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2019年8月6日に公表いたしました2020年3月期の通期連結業績予想値を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

## 1. 2020年3月期通期(2019年4月1日～2020年3月31日)の連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (2019年8月6日発表)	167,000	8,500	7,900	5,500	139.09
今回修正予想(B)	164,000	7,600	7,200	4,800	121.39
増減額(B-A)	3,000	900	700	700	
増減率(%)	1.8%	10.6%	8.9%	12.7%	
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	174,116	8,915	8,235	4,654	116.23

## 2. 連結業績予想の修正の理由

通期の業績予想につきましては、前回(2019年8月6日)発表の業績予想との比較において、売上高は、ユニック部門および化成部品部門では、第2四半期連結累計期間における増収を主因として、増収となる見込みです。ロックドリル部門では、米中貿易摩擦の長期化懸念などを背景とした海外経済の減速から、主として、アジア、アフリカ、中東地域等で油圧ブレーカ、油圧クローラドリルの出荷減による減収を見込み、電子部門では、高純度金属ヒ素、結晶製品ともに在庫調整の影響による需要減を主因として減収となる見込みで、連結全体の売上高を下方修正しています。

営業利益につきましては、産業機械部門では、主因として、マテリアル機械で破碎機、造粒機など、原価率の改善による増益を見込み、ユニック部門と化成部品部門では、増収により増益となる見込みです。また、ロックドリル部門と電子部門では、減収による減益を見込み、連結全体の営業利益を下方修正しています。

以上の結果、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、それぞれ、下方修正しています。

(注) 本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上